



No.62

令和6年3月1日

発行 多治見市教育研究所

URL: <http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でご覧いただけます。

巻頭言

忘れられない恩師の背中

養正小学校 校長 高橋 光弘

小学生時代の苦い思い出

私には今でも忘れられない苦い思い出があります。小学校5年生の時のことです。外掃除の当番の時、私は友達とある失敗をしてしまいました。掃除場所は、校庭の隅のほうにあった忠魂碑という大きな石碑の周辺でした。その周りには大きな岩が並んでいました。そして、岩のそばには、縄でぐるぐる巻きにされた何かがあったのです。ちょうどその頃、新校舎を建設する工事が始まっていたため、プレハブの仮設校舎で生活していました。後から分かったのですが、縄でぐるぐる巻きにされていたのは、校舎のそばに設置してあった石像でした。工事のために避難措置が取られていたのです。

しかし、当時の私はそんなことは知る由もありませんでした。その日も友達と3人で、掃除時間に遊んでいました。私は友達と当時のヒーローである仮面ライダーのライダーキックをまねして遊んでいました。大きな岩の上から縄でぐるぐる巻きにされた物を的にしてライダーキックをしていたのです。その時、誰のキックかは覚えていないのですが、キックの勢いで的に倒れてしまい近くの岩にぶつかって折れてしまったのです。

その瞬間、時間が止まりました。そして、どうしようか考えました。担任の先生は、学校で一番怖い先生だったので叱られることに対する不安が大きかったことを覚えています。それでも、叱られることを覚悟して3人で担任の先生に謝りに行くことにしました。

ところが、担任の先生は私たち3人を叱りませんでした。その後、一緒に校長室に行くことになりました。そして、担任の先生は私たちの前に立ち、校長先生に頭を下げて謝られたのです。私も、「ごめんなさい。」と何度も繰り返し謝ったことを覚えています。

その時、私は「担任の先生は何も悪いことをしていないのに申し訳ない。」という気持ちでいっぱいになりました。と同時に、とんでもな

いことをしてしまったのだとようやく理解できました。全く情けない話です。

認めてもらえた喜び

その後、私なりに失敗を挽回したいと考えて担任の先生が大切にしていた自主学習を続けました。特別な内容はできませんでしたが、日記や漢字練習など毎日続けました。今から思うと、自分にできる償いだったと思います。

その後、5年生が終わろうとしている時に、思いがけない出来事がありました。ある日、帰りの会の先生の話の時に、「光弘は、失敗もあったけど、よく頑張るようになったと思うぞ。」と話されたのです。私は、ドキッとしたことを今でも覚えています。と同時に、こんな自分のことを認めてくださったことに言葉にならないくらいの喜びを感じました。

教員になって

教員になり、時々担任の先生のことを思い出していました。私の失敗は、きっと職員会でも議題になり、PTAや教育委員会にも謝罪と報告があったことでしょう。担任の先生は、あの時どんな思いで校長先生に謝られたのだろう。そして、どんな思いで私のことを認めてくださったのだろう。このような疑問を抱きながら教員として歩んできました。子どもたちは様々な失敗をします。そういう時には「きちんと反省できたね。これから挽回することが大切だよ。期待しているよ。」と語ってきました。

そして、ある時気付いたのです。私もあの時、『失敗から学び成長するチャンス』をいただいていたのです。感謝しかありません。

近年、失敗すると叩かれる時代になったと感じます。程度にもよりますが、人は失敗を通して成長する存在だと信じています。

今年度から始まった第3次教育基本計画に「自己有用感」と「挑戦」が明記された意味を問い直しながら、先生方や子どもたちと一緒に歩んでいきたいと思っています。